

びわ湖マラソン2025ボランティア 参加してきました【公益事業報告】

皇子山陸上競技場をスタートし烏丸半島をゴールに開催されるびわ湖マラソン2025の医療救護スタッフとして、当士会から有志を募り、10名で参加してきました。今年度は例年の救護所活動に加え、新たに救護車での活動も行いました。

初めてマラソンのボランティアに参加させて頂きました。担当は、ゴール地点の救護所を担当させて頂きました。脱水や低体温など、スポーツ現場ならではの症状に対して、普段の臨床現場ではあまり経験できないことを体験する事ができてました。普段は、球技に関わる事が多いのでマラソンを通して知見を広げる事ができました。7000人という参加者に対して迅速に対応することが求められ、PTとして、その場で何ができるのかを考え行動する経験は今後の活動にも活かして行きたいと思いました。

<救護所 宮野瑞樹>

昨年につき2回目のボランティア参加となります。前回は自転車AED隊でしたが、今回は救護所で活動させていただきました。天候に恵まれ、マラソン日和だったと思います。ゴール直後で、脱水や低体温、足を攣る方が多く見受けられました。救護をさせていただいた際に、ランナーの皆さんからは感謝のお言葉をいただき、すごくやりがいを感じました。来年も是非参加したいと思います。

<救護所 徳田一樹>

昨年引き続き、2回目のマラソンボランティアでした。今年は第2救護所での活動で、医師は待機しておらず、自らの判断で動く必要があり、緊張感がありました。活動時間が短く、対応したのは3名でしたが、補水やアイシング対応など、去年の経験を活かすことができたと思います。間近で選手の応援ができ楽しさもあまりました。来年も是非参加したいです。

<待機救護車 辰巳麻美>

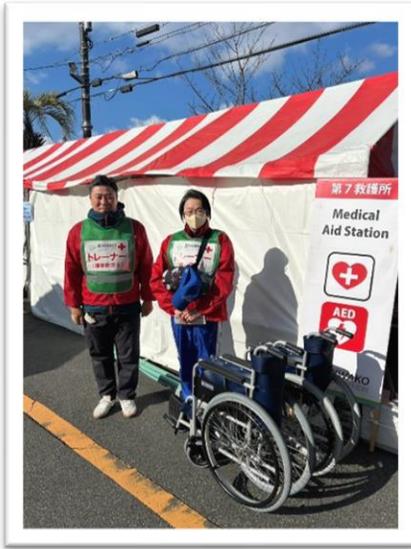


三日月知事も
参加されていました！



はじめてマラソン大会を間近で体験させていただきました。30キロ地点で痛そうに歩かれています方も多かったのですが、42.195キロを走ろうと決心された方に畏敬の念で、応援にも熱が入りました。救護所では痙攣の対応が多く、救急搬送になられた方もあり、現場での臨機応変な対応を学ばせていただきました。全身筋肉痛になりましたが、また来年も来たいと思いました。

<救護所 森美穂>



今回が初めての参加で至らない所もあったと思いますが、運営スタッフさんを中心に楽しくチーム活動する事ができました。医師、看護師の活躍を現場で見る機会となり、理学療法士としてとても勉強になりました。また、救護のない時間帯はみんなでランナーの応援をしたり、自衛隊の車を拝見させていただいたり、とても貴重な経験をする事が出来ました。びわ湖マラソン終了後には前回大会よりも怪我人等が少なかったとの報告も受けて安心しました。

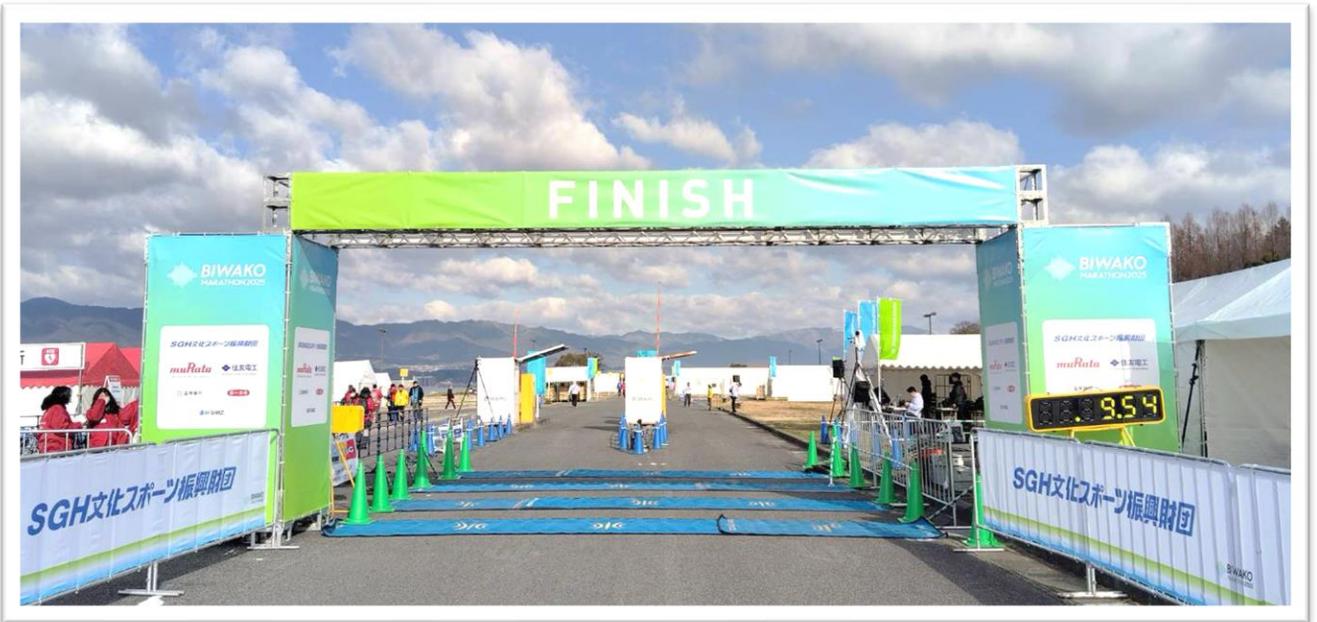
<待機救護車 西野貴博>

びわ湖マラソン大会（2025年3月9日開催）に参加させていただきました。マラソンランナー様の体調不良や怪我などを中心に対応しサポートをさせて頂きました。大変貴重な経験をさせて頂きました。

<待機救護車 岸本美地彦>

初のトレーナの活動でしたが、ランナーの応援も楽しくさせていただき、負傷された方の対応も、自分の知識を活用して、再Ranに送り出すことができ、貴重な体験ができました。スポーツ分野は難しいけれど、おもしろい分野だと感じました。一緒に活動していた、医師も看護師も学生さんもみなさん話やすく、とても有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。

<救護所 田村峰香>



今回、待機救護車にて救護活動を行いました。担当したのは25km付近での救護活動でした。ランナーの方々の疲労が溜まってくるポイントなのか、多くの救護活動に追われました。特に大きな怪我をされたランナーはいなかったもので、ほっとしています。
来年も機会があれば是非参加したいです。

<待機救護車 大伴賢哉>

私は救護所7(33km付近)と最後尾救護車でのボランティアで、救護所を軸に最終ランナーに続くような位置でした。30kmの壁を超えて疲労がピークになる辺りでしたので足が攣るランナーが多く、救護所に運ばれる前にコース近くでリカバリーサポートをさせていただきました。コース復帰していくランナーに「ありがとう！走れるようになったわ！」と言われ嬉しかったです。完走後に対応したランナーからも感謝の言葉や、疲労回復に向けてのアドバイスを求められ改めてPTのニーズも確認できた良い大会でした。

<待機救護車 村崎 陽一>

